

新年明けましておめでとうございます。元旦早々石川県で大きな地震がありました。被災した皆様が一日も早く通常の生活を取り戻せるよう祈念致しております。

1.活動報告

1-1昨年11月18日に浜須賀地域の防災訓練に参加しました。

4年ぶりに浜須賀中学校校庭で開催されました。当日は晴天ながら強風下での訓練となりました。ハイツからは17名が参加しました。役員、サポート要員を含めお子さんも参加され有意義な訓練になりました。浜須賀地域住民は9班に分かれて訓練、松が丘ハイツ自主防災会は①毛布などを用いた負傷者搬送訓練②消火器訓練③負傷者救出訓練を行いました。



1-2昨年12月2日に安否確認訓練を行いました。

訓練前に緊急サポート要員の方にはトランシーバーの操作を確認していただきました。安否確認訓練は、地震発生午前9:00 震度6 想定でスピーカーによる告知で訓練を行いました。当日は、安否確認者20名のうち18名のご協力を得ることができました。今回の安否確認の不在者は40名でした。安否確認終了までに約30分を要しました。新しいサッシュは遮音性が高いためスピーカーによるアナウンスが聞こえなかったことも考えられます。次回以降の訓練では予め窓を開けて情報の確保の協力をお願いします。新しいサッシュは外の音が聞こえにくいので、災害時は情報取りのため時々開けたほうが良いかもしれません。

今回ご事情で参加できなかった方も、ご自身やご家族のためにも次回以降の訓練時にはご参加、ご協力をお願い申し上げます。

2 災害時のみ氏名公開の要支援者様へ

災害時のみ名簿が公開される要支援者は、市の職員の方が浜須賀中学校に名簿を搬送してからハイツが情報を取得します。震災発生時は情報取得まで多くの時間を要する可能性があります。いざという時に適切な対応を受けられない可能性があります。

匿名にするメリット、デメリットについてご検討ください。

3 近日中（3月）に防災グッズの共同購入のご案内を検討しています。

1

裏面特集

前回は地域の避難所と救急体制について

2

裏面特集 今回

地震時の対応：ケガをしない家の環境作り

3

裏面特集次回

ローリングストックの推奨例

能登半島地震の教訓。

液状化の影響は大きい。道路の陥没や上下水道への影響が大きい。

ライフラインの復旧、電気は比較的早い、給水、ガスは1週間以上の時間が必要。

通信障害は1週間経過しても残る場合がある。

給水が十分ではない場合、医療体制への影響が大きい。

水、食料、トイレの災害用ストックは1週間以上確保が望ましい。

場合によっては、震度6程度の余震が1週間以上続くことがある。

二次被害に遭わないように『エコノミークラス症候群』にかからない対策を知っておく必要がある。

火災を起こさないことの重要性。火元にならないためにも通電火災を起こさない対策は重要。

茅ヶ崎はクラスター火災が怖い。

災害は季節を選ばない。寒さ対策、暑さ対策も考えておく。

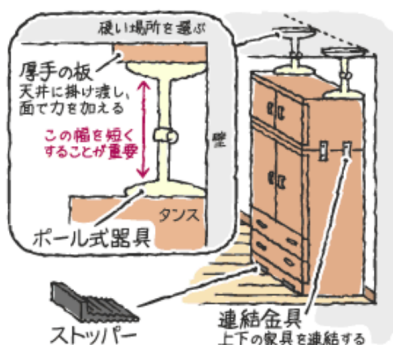
地震による負傷の多くは、家具類の転倒・落下が原因です。転倒・落下した家具につまずいたり、家具が倒れたときに割れた食器やガラスなどが、多くの負傷原因となり、大変危険です。

地震の際、家具は必ず倒れるものとして考え、災害に備えることが必要です。まず、5つの事柄を実践しましょう。

- | | |
|----------------------|---------|
| (1) 家具の倒れる向きを考えて配置する | 避難経路の確保 |
| (2) 家具部屋をつくる | 安全空間の確保 |
| (3) 作りつけの家具を使う | 転倒リスク軽減 |
| (4) 寝室には家具を置かない | 安全空間の確保 |
| (5) 家具を置く場合には固定する | 転倒リスク軽減 |

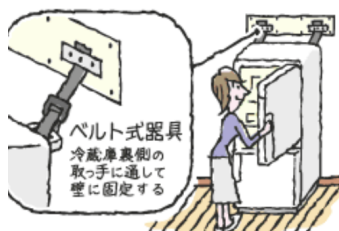
また、家具固定の際には、壁や天井、床などに対し、複数の固定器具を併用するのが理想的です。家具同士の連結も効果があります。

Point 1 家具は壁に固定
「家具は必ず倒れる!」



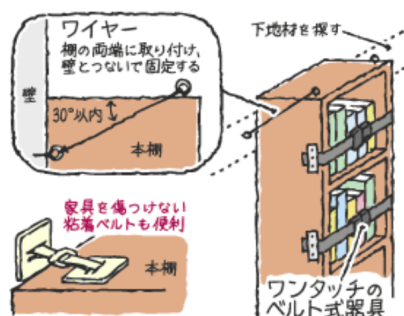
■タンスの固定
ボール式器具は家具の奥につける。また、左右の揺れで外れやすいので注意。上部だけでなく下部もストッパー等で固定。上下に分かれた家具は連結する。ボール式器具は天井や家具の硬い所に付ける。

Point 2 冷蔵庫やピアノが凶器に
「重い家電や家具も動く!」

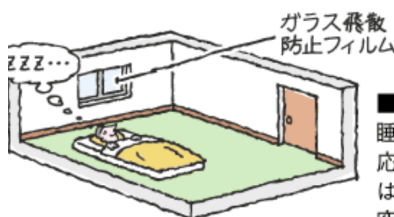


■冷蔵庫の固定
重量物も、地震では簡単に動くため、必ず固定。キャスターにはストッパーを付ける。

Point 3 家庭に安全空間を
「寝室に家具を置かない!」

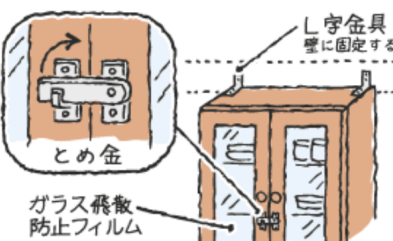


■本棚の固定
揺れても中の本が飛び出さないよう、本棚の端の硬い部分にヒモやベルトのようなものを取り付ける。



■寝室は安全空間に
睡眠時は地震への対応が鈍るため、寝室には家具を置かず「安全空間」にする。

Point 4 必ず通れる避難経路を確保する
「廊下に避難の妨げとなる物を置かない!」



■食器棚の固定
壁の中の硬い所、下地材のあるところを探し、金具、L字金具などで固定する。さらに観音扉が開かないようストッパーを付ける。



■避難経路の確保
被災時でも廊下や玄関が通れるように工夫し、非常持ち出し袋を準備しておく。

地震で負傷しないためには、事前の備えが必要です。もし、緊急地震速報が受信できる環境があったとしても、それに対する備えがなければ単なる死亡宣告になってしまいます。まずはできる部分からはじめ、家庭内に「安全空間」をつくることで、被災時や被災後に、安心して暮らせるのです。